

失語症学、摂食嚥下障害学

准教授 宮本 恵美
Megumi Miyamoto

現在の研究テーマと内容

現在、次のようなテーマを研究しています。

1. 失語症者の構文ネットワーク構造の解明とその評価法及び訓練法の開発
2. 嚥下障害者への間接訓練法の検討

これまでの研究成果と今後の展開

軽度失語症者の構文ネットワーク構造については、格助詞「デ」、「ニ」、「ヲ」、「ガ」の観点から調査し、その特徴を明らかにし、その結果から考えられる評価法と訓練法の提案をいたしました。また、その後、大塚教授とともに担当した本学大学院修了生が失語症者における動詞の多義性（同一動詞内におけるそれぞれの意味）の理解力を、親密度の視点から評価し、結果、理解力が軽度から中等度の失語症者において、動詞の多義性の理解には、親密度が影響する可能性を示しました。現在は失語症者の「名詞」の言語運用の障害に対して、多義性の考えを重視し、意味ネットワークの視点からその特徴を明らかにするための研究を行っております。

摂食嚥下障害に関する研究では、本学の摂食嚥下研究チームとともに担当した本学大学院の修了生が「構音動作を用いた喉頭挙上訓練の検討」のテーマで健常若年者に対し既存の訓練と「力」の連続構音の訓練を実施し、その訓練効果について調査をいたしました。結果、「力」の連続構音訓練は喉頭挙上訓練として有効であることが示唆されました。本研究は、本学大学院の優秀論文賞を受賞し、その後、日本言語聴覚学会誌にも論文掲載されました。今後は、さらに簡易で効果のある間接訓練や姿勢と嚥下咀嚼機能に関する研究を進めていく予定です。

大学院を目指すみなさんへメッセージ

日常の中で、「なぜ？このような症状がでるの？」、あるいは、「このような方法では、症状の改善に効果はないのだろうか？」など、たくさんの疑問を持つことがあるかと思います。その疑問のすべてが、研究の“種”です。その“種”から素敵な花が咲くようにお手伝いします。失語症学や摂食嚥下障害学に興味のある学生さん、ともに楽しく研究しませんか？